



所長あいさつ

『これから』を生きる子供たちを育てるために

水戸教育事務所長 大芝 静香

令和4年度は、数年ぶりに桜の花のもとでの始業式や入学式が行われ、子供たちのはじける笑顔に囲まれたスタートであったかと思えます。様々な制限の中でも、感染症対策に取り組みつつ、教育活動の充実に向け、工夫して積極的に取り組んでこられたことに、心から感謝いたします。

Society5.0に象徴されるように社会の変化に伴い、学校教育も大きな転換期を迎えています。子供たちには、困難なことに直面しても、しっかり「自分らしくこれからは生きていく」ことができる力、言い換えれば、先を見通ししっかり対応できる知識と技能や、組み合わせて応用できる考え方（思考の方法）、前向きに取り組む胆力とやる気を、そして十分な体力などを育てる必要があるということでしょう。

そのような子供（人財）たちを育てるため、学校は「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、一人一人が自分の力を最大限に発揮し、伸ばしていく質の高い学び」を実現する必要があります。そのため、1人1台端末を効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を組み合わせながら、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図ることが期待されます。

学校においては、明確なビジョンのもとにグランドデザインを描き、「社会に開かれた教育課程」のもと、カリキュラム・マネジメントを行い、協働的に取り組むチーム力の向上が不可欠です。学校の目指す方向と自分がなすべきことを全職員が意識し、支え合いながら取り組んでいく、子供を中心になんでも語り合える風通しのよい教職員集団を、校長のリーダーシップと職員のフォロワーシップで作っていききたいものです。

私たちの教育活動の成果は、子供たちをしっかりと育てることができているか、ということです。教職員一人一人が自らPDCAサイクルを回した課題を改善しながら、研修を積み、先を見通す先見性を身に付け、「育てる力」を付けていくこと（自らを育てる）が大切です。

しかし、時間は有限ですから、働き方改革により子供と向き合う時間や自らを伸ばす時間を確保するとともに、先生方が夢を語り合い、やりがいをもって元気に取り組むことができる、働きやすい職場環境づくりが不可欠です。より質の高い教育活動を提供するとともに、魅力ある職業として、教員を志す若者の増加にもつながるものと期待しています。

先生方一人一人が社会の変化を前向きに受け止め、教育事務所、教育委員会、そして学校が丸となって、引き続き力を合わせて、さらに充実した学校教育を創り上げていきたいと思えます。

この一年間、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

